

・雨でも休まず、262回、263回・

「小原本陣の森・若柳嵐山の森」

- ・定例活動 : 6月 7日 (第一日曜日) : 小原本陣の森・団地化を目指す、弁当持参
 - *ベテラン向き、担い手育成、技術向上、参加費400円、
 - *新潟大が当会活動を見学に来る
- ・定例活動 : 6月21日 (第三日曜日) : 若柳嵐山の森・里山交流、多様な森林活動
 - *一般むき : 参加費400円、主食・自分の食器、飲料水。
- ・第7回通常総会 : 同日活動終了後16時～、相模湖交流センターにおいて。
-
- *注意事項1 : 初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合、ベテランは各自森へ
 - ・服装 : 汚れても良い服装、着替え・夏は黒色を避ける長袖、滑らない足元
 - ・持参 : 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水
- *注意事項2 : 危険管理・救急体制 : 森林ボランティア保険他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

CO₂の年間蓄積量増加に加速がついてきた

過日、NHK テレビ特集2時間番組で見たのだが、カリマンタンでスハルト大統領の治世の時、人口増大のための食糧増産対策として、湿地帯を灌漑工事して農地を作った。が、そこが泥炭地だったので乾燥して火がつき、農地はおろか森林にまで燃え広がった。広大な森林消滅である。

無計画な焼畑農法や違法伐採に加えて最近では異常気候のための大規模な山火事がしばしば報道されている。そんな状況の中での特集番組であったが、特に愕然としたのは、以下の数字である。

	CO ₂ 排出総量	海のCO ₂ 吸収量	森林のCO ₂ 固定量	差引き蓄積量/年
1998年	60億t	(24億t +	23億t)	13億t
2009年	70億t	(22億t +	9億t)	39億t

出典 : IPCC・NHK 報道

当会が活動を始めた当時と比較してみる。こんなスピードで変化しているのだろうか。

活動開始年	1998年時の年間の森林減少面積	: 400万ha
昨年	2008年時	": 1200万ha

当会は、「森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない」と言う旗印を掲げて活動を立ち上げたが、最近「森のない地球に未来はない」と森林の保全・再生を進めている団体との交流が始まっている。

環境問題は「特定の1人の専門家より、99人の普通の人々との協働」によって解決の途が開かれる……、当会の主張である。

もう、間に合わないか、未だ間に合うか。単に森林NPO活動だけでは済まなくなっている。ならば、どうすれば良いか。

小原本陣の森・定例活動 5月3日（第一日曜日）

Forest Nova☆ 青山学院大学1年 深澤祥宏

五月に似合わない暑い日が続き、また梅雨が近づいてきて、蚊が飛び交う季節になってきました。



今回 Forest Nova☆では、経路作りを行いました。新たに一本の木を間伐し、すでに間伐してあった木とともにチルホールとスリングを使って移動させて経路にしました。木がとても重いため思ったところに移動できず、苦勞しました。

この写真はチルホールを使って、必死に木を移動させているところです。

午後も引き続き経路作りを行いました。久しぶりの小原での活動だったのでみんな疲れが出てきて、作業スピードが多少落ちてしまいました。一日通してできた経路は木二本分の長さだけだったので、あまり効率のいい作業だったとはいえませんが、全員最後まで集中力を切らさずに最後までやりきることができました。

今日は作業中に汗がでるくらいとても暑い一日となりました。みなさんも熱中症には気をつけて、十分な水分補給を心がけるようにお願いします。これからの季節は蚊が出てくるので、そちらのほうの対策も忘れずに。

.....

5月は六大学（関東学院大、麻布大、東京都大、日本大、帝京科学大、青山大）から16名が参加した。

学生連合の名に相応しい陣容になりつつある。実践活動をベースとして森林のあらゆる可能性を引き出そうとしている。そもそも環境活動に関心の深い学生は、問題意識や志向レベルの高い者が多い。更に森林の現場に出向いてくると言うことは実践の力量も伴うということだ。体力があって頭脳が柔らかいから何が飛び出すか、将来が楽しみである。



4月28日(火)にForest Nova☆のオリエンテーションを今年も橋本のソレイユさがみのセミナールームにて行いました。このシオンではForest Nova☆や森てもらい、より多くの学生と一ようにするためにForest Novaの現状についての話をパワーポイント



のオリエンテーションのことに知っ緒に活動できる☆の紹介や、森イントでお話し

今回は麻布大学を初め、日本大学、帝京科学大学、芝浦工業大学から学生が参加してくれました。

大学、青山学院大学など色々な

オリエンテーションの最初には、初対面の参加者の緊張をほぐすためにアイスブレイキングを行いました。今回行ったのは9マスに分かれた紙を用意して、1マスずつ自分の今気になっていることや好きなことなどのキーワードを書いていくつか発表し合いました。場も盛り上がり、これでお互いのことを知り話しやすい雰囲気を作ることができました。

その後、森の現状についてのお話をしました。人工林が多くなってしまった経緯や、今の人工林の現状の説明、荒れた森を回復させるためにはどうすればいいのかなどをお話ししました。

つづけてForest Nova☆がどういう活動をしているのかを説明し、『森をつくる』『森をいかす』『森を知る』『森をつなぐ』ごとに活動のお話をしました。

参加者さんは熱心にお話を聞いてくださり、森林についてとても発信することができたと思います。

このオリエンテーションをきっかけに森に興味を持ってくれた学生がその後活動にも参加してくれました。学生の輪をこれからもどんどん広げていきたいと思っています。

.....

* 学生連合 ForestNova

「損保ジャパン」が立ち上げた学生による環境運動・エコ青年隊が、当会の森林活動の繋がったものである。2007年にこの構想を持ち込んだのは、東京薬科大学・前川院生であった。前川学生の呼びかけに逸早く相模原市の麻布大学生が反応して今では、関東学院大、東京都市大、帝京科学大、慶応大、早大、青山大、創価大、法政大、山梨大、信州大、千葉大等が参加している。

東海大付属・望星高校、「望星の森」の指導者・宮村教諭も損保ジャパンの環境運動エコ青年隊の出身者である（石村記）。

若柳嵐山の森・定例活動：

5月17日（第3日曜日）

報告：石村 黄仁

天気予報では雨。雨天の場合は、駅前公民館で勉強会に切り替えることにしているので、森林に関するビデオを3巻、持参した。

車が相模湖に向かうにつれ空が明るくなって、集合場所・相模湖駅に着いた頃は、雨の気配がなくなっていた。

参加：学生連合 16名、桜井先生が引き連れる卒論準備の日大生 6名を含む 42名。望星高校は学校行事で不参加。雨予報で一般参加も少ない。雨の降る気配のなくなった森のお花畑で、色鮮やかな花々が咲き誇っていた。



現在の集合基地は、この森を使い始めて9年を経過しており毎月、多数の人々が集まるため基地にある大木の根元が踏み固められて、根が浮きと打し樹勢が急速に弱くなっている。そこで、この基地の大木を休ませるため、集合基地を林道少し上の杉林に移動する事としているので、この日は、現在の集合基地の片付けと新しい基地の地慣らしをすることにした。

フォレスト・ノバは、協力協約整備林C地区の経路づくりに取り組む。

何時も活動報告をしてくれる伊藤さんが、参加できなかつたので、3月から参加の佐藤陽子さんに参加の印象記をお願いした。

嵐山にきて

佐藤陽子



ここ嵐山の森のある相模湖町のお隣の藤野町の住人になって早30年、都心からは電車で1時間程の通勤圏にありながら、緑多き素晴らしい自然環境だと日頃、感じていた私です。よそ者だからこそ余計に思うのです。藤野駅から徒歩約7分の我が家からは、バードウォッチャーにとっては垂涎的、希少種の夏鳥“ミゾゴイ”の鳴く声が毎夕聞こえますし、その他にもオオルリのリズムカルな歌声などトリキチ(今時言わないって)に取ってはこたえられません。

先日、石村さんに野鳥がどうして好きか尋ねられましたが、鳥自体の魅力も勿論ですが、あらためて想うと野鳥が生きている生息域を含めて味わうとか、ひたることが好きです。

何だか勝手に自己紹介しちゃっている・・・、未だ、この会に参加して3ヶ月、毎回皆さんが真剣に活動に取り組んでいらっしゃるのに感心しています。それと高校生、大学生と若い人たちが大勢活動している事、とても頼もしい限りです。素晴らしいと思います。

報告：緑のダム湘南の森

報告：石村 黄仁

団体として、正式に活動を開始した。

雌伏 5 年目にして、「湘南平・八俣山・高麗山」をフィールドとする”緑のダム湘南の森”が先ずは任意団体ではあるが、この 4 月 25 日に設立総会を開いて団体として立ち上がった。

何故、永年、ここに拘ったか。先ず、地の利である。横浜～小田原・東海道線に沿って大きな都市が繋がっている。湘南の森は、JR 大磯駅から楽しみながらの徒歩 30 分の距離。湘南平展望台から 360 度グルリ、丹沢山塊から太平洋まで見渡せる。この三つの山は、夫々に独特の植生があり、四季折々に楽しめる。ここが、この 15 年ばかり放置されているため、荒れるに任されていたのだが、岩澤由美子さんをお願いして数人で”雨でも休まず・・・”、細々と森林整備を続けてきた。そこに、「日本森林インストラクター会・神奈川会」と知り合って相談したところが、良いでしょう」と応援に入ってくれる事になったのだ。



湘南の森の皆さん、若い参加者が急増の傾向

この三つの山の尾根は、格好の軽ハイキング路があり、午前中はゾロゾロをハイカーが続いている。そんな場所だから、森林の意味を広報するには絶好の場なのだ。湘南の森は、数年を経ずして、“緑のダム北相模”を抜いた活動に発展しているだろう。

森づくりモノづくりコンテスト

第 2 回間伐材を生かした「森づくり・モノづくり」コンテスト展示会・表彰式

日時：4 月 29 日 10：00～16：00

会場：県立相模湖交流センター1 階「アートギャラリー」



講評する丸茂会員



入賞作品展示会：相模原市役所前

第12回「相模湖やまなみ祭」が新緑の美しい相模湖畔・対岸のふるさとの森・交流センターで開催されました。森林再生事業実行委員会では、豊かな森の再生のため「間伐材活用部門」「ランドスケープ部門」「子ども部門」と3つの部門に分けて募集をし、全国から314点の応募があり、審査委員の先生方に厳正なる審査をしていただきました。

表彰式には全国から遠路遥々お集まりいただき、表彰状・賞金・賞品の授与式を行いました。受賞者のみなさんには、作品のコンセプトなど一人ひとりプレゼンをしていただきました。来場者のみなさんからは楽しい質問が出たりして、和気藹々とした和やかな表彰式になりました。地元小学校の子ども達もどんなところを工夫したかなどしっかりプレゼンができました。

森林再生事業実行委員会では、第1回・2回と集まった応募案を実際に制作して、製品化をしていきたいと考えています。第1回「子ども部門」で最優秀賞だった「モンスターアドベンチャー」は1/6模型までできあがり、製品化に向け最終段階に入っています。相模湖から発信する「間伐材コンペ」が、全国のみなさんに間伐材について考えていただくきっかけになり、大変嬉しく思っています。

森林再生事業実行委員会 事務局 淵上美紀子

ヤングパワー：望星の森：東海大付属・望星高校

当会が支援を受けていた損保ジャパンエコ青年隊として宮村連理さんが活動に参加していた。やがて彼は教師となり高校生を引率してやって来た。そこで、“若柳嵐山の森”の一部、崩落跡地を活動地として提供した。

そこを「望星の森」名付けたが4年を経過した今、上部急斜面には、根を張る栃の木、下部の軟斜面には花粉を出さない杉を植えている。この森の変化を高校生らと記録を取りながら、文科省のSPP（Science Partnership Project）に応募した。来年は、森林学会で成果発表すると言っている。多感な青年時代を、宮村教諭の様な熱血の青年教師に指導受ける生徒は幸せである。



父兄から当会事務所に「うちの子供は、学校の事は殆ど話しませんが、森に行った日は、森の事を良く話します」電話が掛かってきたりもしているが、学校の環境保護活動に対する理解は深く、望星高校から「教育推進に協力してくれているから」と森林支援金が振り込まれて来た。お礼に学校に訪問したら細野校長は、「学校として正規に森林活動を取り入れる計画を進めています」と言う事であった。「望星高校が、多感な青年の心の拠り所となる、全国を代表的する指導校になって下さい」とお願いして辞した。

・再び、シエン・・と言う考え方について。

6月2日の日経新聞朝刊記事、「世界を語る」に「無私の心で新事業拓け」という記事が出ていた。バングラデッシュのノーベル平和賞・経済学者ムハマド・ユヌス氏が、マイクロファイナンスと言うシステムで、低所得者層への自立のための少額資金を無担保で貸し出す仕組みだ。返済率は98%にも上る。資金源は、ユヌス氏創設によるグラミン銀行。無私・奉仕の心を持つ人々から75億ドル（約7兆5千万円）を集めたそうだ。

最近、ソーシャルビジネスと言う言葉を聞くようになった。貧困・環境など社会問題に取り組むビジネスの事だ。この事業は、主に非営利活動：NPOが取り組む事業だ。民間の高い専門性を生かして、行政など公的セクターが行っていた公共性の高い事業を代行するビジネスである。方向性からいえば、当会は気付かぬうちに、ユヌス氏の理論を実践していた言えるであろう。

それならばいっそ、もっと効果的な森林の保全・再生運動を展開するために「森林シエン証券」などと言うものはできないか。NPO運動でも活動資金はあるが、そこに善意・無償・無私 of 思想を盛り込みたいと考えるのである。営利活動に対しての非営利活動は、我欲の抑止力になるのではないか。

勝った者が正義、という米国発の経済原理主義・自由競争主義が過熱して、リーマンブラザーズは、経営者もトレーダーも我欲に走って目が眩んだ。クライスラーやフォードも危ない。我が国では、終戦直後の光事件とか、数年前のホリエモン事件もあった。

《 その他の報告 》

毎日新聞社（水と緑の地球環境本部）が、今年から当会を応援してくれる事になった。新聞社とも英知を共有して、我欲の抑止力になるNPOシステムづくりもしてみたい。NPO法が出来て12年目。玉石混交・混沌としたNPO活動が続いている。NPO会計基準が未だ、出来ていない。

神奈川・水源環境の保全・再生：「県民会議」：任期終了に当たって 石村記

2年間の任期で県の水源環境事業の内容を検討する県民会議の重点として参加してきた。県民会議の最終回で以下の発音で閉め括った。

「私はこの2年、森林の環境性と同時に経済性を言い続けてきました。言う限りは、実践が伴わねば説得力に欠けます。そこで、私どもの管理する森林の内、約80haを経済性の伴う、林地の団地化・集約施業と言う方式を取り入れた施業方法に取り組んでいます。この事業は、相模原市と協働する事が決まっています。また、県内河川の入口・上流域の森林整備は勿論、重要課題ですが、出口である都市部での木を使う視点不足が心配です。

過日、厚木と小田原にある製材所に原木を搬入したところ、もう木が山積みで入れる場所がな

いと言う状況でした。製材所によると、“土場にも沢山在庫が置いてあります。製材しても出る先がなく糞ずまりの状況で困っています”との事です。やはり、“木を使う事は、森を守る事“ですから、体験上からも出口の消費の所を、もう少し考えて欲しいと思います。

この2年間、県民会義・県林業行政と直接、関係して随分と勉強になりました。この勉強を行政と市民団体を健全な在り方に持って行くよう、これから取り組む集約施業の中に活かして行きたいと思います。ありがとうございました。」

急務！、森林整備：林道開削と材搬出。

拡大造林による針葉樹が50年生、60年生になって出荷の時期に来ている。国も躍起になって伐出を奨励している。然し、放置してきた為、品質が悪い。悪いがここで伐出しなければ放置林は、ますます荒廃の一途を辿る。相模原市の林道は、ha当たり全国最低の3.9mしかない。林道がなければ森に入れず木が伐れない。膨大な資金が必要だが林道開削が急務だ。資金回収方法として品質的に住宅材は難しいが、材質に拘らないパルプや木質バイオマスエネルギー等の用途がある。リグニンやセルローズにも可能性がある。放置したツケが回ってきたが、手をこまぬいていたら、ますます、森林の崩集が加速する。相模原市の森林は最悪状態だが、打つ手はある。一介の森林NPOの作業量は微々たるものだが、全力を尽くしてあらゆる可能性に取り組む。



活動のモットー : 急がず、楽しく、無理せず、休まず、ボチボチと・・・
そして、沢山の参加で森は良くなる。

名 称 : NPO 法人緑のダム北相模

事 務 局 : 154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9

発行人 : NPO 緑のダム北相模・運営委員会 : 03-3411-1636

H P : <http://midorinodam.jp>

E-mail : info@midorinodam.jp

協 働 団 体 : 神奈川県（政策部土地水資源対策課、環境農政部森林課、県央地域県政総合センター） セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）
毎日新聞社（水と緑の地球環境本部）

ご支援の団体 : WWF・japan, イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、生命の森宣言・東京、東海大付属・望星高校、JFEメカニカル